

専門部会報告シート

部会名	就労支援部会	報告回	令和元年度第3回全体会
委員 氏名		氏名	選出母体及び役職等
	1	◎高橋 美佳	地域生活支援センターあけぼの 所長
	2	○桑田 利重	地域生活支援センターみ～な センター長
	3	玉上 博康	府中市福祉作業所等連絡協議会 ワークショップさかえ 施設長
	4	田村 智久	府中市パーキンソン病友の会 会長
	5	松田 豊	東京都立府中けやきの森学園 教諭
	6	塚本 美樹	府中公共職業安定所 専門援助部門 統括職業指導官
※部会長は◎、副部会長は○			
現状	「障害者の雇用の促進等に関する法律（障害者雇用促進法）」の改正により、平成30年4月から障害者の法定雇用率が引き上げられたため、雇用の拡大が期待される中、障害者本人だけでなく雇用する企業側にも悩みがあるということが、昨年度開催された「障害者雇用相談会」において明らかとなっている。そこで、障害者雇用を促進するため、障害者本人及び企業に対して雇用に関係するための支援が必要である。		
検討 テーマ (概要)	市内の就労支援について課題を整理し、ハローワークや庁内実習実績、関係機関からの意見等を得ながら議論を進め、就労を長く継続するためにより良い方法を、課題や背景を基に意見を集約する。		
取組 経過	<p>【令和元年度の取組】</p> <p>「障害のある方が安心して働き続けられる地域（社会）を構築する。」をメインテーマとして雇用する企業に対する支援方法や雇用を目指すための周知策を検討した。</p> <div style="text-align: center;"> <p>安心して働く</p> <pre> graph TD A[安心して働く] --- B((本人)) A --- C((企業)) B --- D[生活・働くを支える] C --- E[雇うを支える] D --- F[就労を支える資源] E --- F subgraph F [就労を支える資源] G[・学校・就労支援センター・ハローワーク] H[・就労支援事業所（移行・定着・A型・B型）他] end </pre> </div>		
検討 結果	<p>【本人への支援について】</p> <p>1、雇用に向けた支援 (現状・課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活基盤が整っていない状態で仕事に就こうとしてしまうことがある。 学校や就労移行支援サービスを受け就職する場合は、支援を行う教員や事業 		

所の職員との関係性がある程度できているが、就労支援機関とは関係性ができていないところからの支援となる場合がある。

- ・ 就労支援機関の人手が足りず、ハローワークなどの同行がなかなかできない。
- ・ 府中市や近隣市での雇用募集が少なく、都心に多い。

(解決策・支援等)

- ・ 市内の中小企業の雇用促進
- ・ 就労支援機関の拡充

2、定着に向けた支援

(現状・課題)

- ・ 学校や就労定着支援のフォローは最大3年間のため、その後は就労支援機関に引き継がれることになる。
- ・ 学校は異動があり、いざ本人が頼りたくなかった時に本人を知る教員がいなくなっている場合がある。
- ・ 就労支援機関の人手が足りず、問題の発信のない職場には年に1回の職場訪問もできないことがある。
- ・ 働き続けると仕事を教える立場になるなど継続していくステージによって、困り事が変化していく。

(解決策・支援等)

- ・ 問題の発信がなくても定期的に職場訪問や面談を行う。
- ・ 支援機関が変わった際の引継ぎを丁寧に行う。(プロフィールシートの活用等)

【企業への支援について】

1、雇用に向けた支援

(現状・課題)

- ・ 大手企業の場合、特例子会社や就労継続支援A型などで障害者を集めることができるが、中小企業が障害者雇用をする場合には、障害のある人もない人も共に働くことになる。(周りの従業員との関係性に関する不安)
- ・ どのような仕事をお願いできるかわからない。(仕事の切り出しに関する不安)
- ・ どのように雇用の相談をしたらいいかわからない。(障害者雇用に関する相談先・方法への不安)

(解決策・支援等)

- ・ 企業向けの簡潔な分かりやすいリーフレットを作成する。
⇒府中市障害者就労支援関係機関連絡会で検討する。
- ・ 雇用相談会を行う。(今年度は11月22日に実施)
⇒主催 府中市・府中市障害者就労支援機関連絡会
- ・ 職場体験などで障害者雇用の実態を知ってもらう。
⇒職場体験、チャレンジ雇用、実習生受入れ先の開拓

2、定着に向けた支援

(現状・課題)

- ・雇用しても仕事の切出しがわからない。切出せる仕事が見つからない。人員が足りず、仕事の切出しを考えるゆとりがない。(仕事の切り出しに関する不安)
- ・障害者をフォローする人員が足りない。(職場内支援に関する不安)
- ・障害特性や合理的配慮について人事担当者や管理職は理解していても、現場職員が理解できていない。(組織全体における理解啓発に関する不安)
- ・企業側からの問題の発信がない。

(解決策・支援等)

- ・仕事の切り出しの支援をする。⇒ハローワーク等
 - ・本人の障害特性がわかるようなプロフィールシートの活用。
- ⇒就労パスポート(厚生労働省)、ちゅうファイル(府中市)、卒業生引継ぎシート(特別支援学校)等
- ・ジョブコーチ、職場内サポーターの活用⇒東京しごと財団等
 - ・職場訪問をして職場の困り事について相談を受ける。⇒就労支援機関等

【今年度の協議から見えてきた課題および来年度の取り組みについて】

1 府中市の障害者が府中市で働くためにできること

- ・府中市の就労支援機関の拡充(平成30年度答申)
- ・市内の中小企業の雇用促進を行う。
- ・定着に向けて「支援者の育成」と「質の維持向上」が求められる役割
- ・地域にハローワークもあることを強みに医療も含めた「支援の輪」を構築していく。

2、来年度に向けて

- ・中小企業の現場の声を聞く。

⇒府中商工会議所を訪問

*質問事項(案)

- ・雇いたくても雇えない理由
- ・過去の失敗例
- ・雇っている企業の現場の評判
- ・どのような人を求めているか(現場の条件)
- ・制度や障害に関する情報源
- ・自由意見

会議開催 状況と内 容		日程	内容
	第1回	令和元年 5月17日	<今年度の活動について> 出席委員4名 *今年度は地域で自分らしい生活を選べるための支

		<p>援として広くまとめていくこととなった。雇用者と本人への支援を両面からとらえ、障害のある方が安心して働き続けるために何ができるのか考えていくことが確認された。</p> <p>*第2回会議で雇用者への啓発について、第3回会議では雇用後の定着のための雇用者への支援について、第4回会議以降は本人への支援について議論をすることとなった。</p>
第2回	令和元年 6月13日	<p><障害者雇用の促進について>出席委員4名</p> <p>*雇用側への啓発について議論を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業向けにわかりやすい簡単なリーフレットの作成 ・障害者雇用を知ってもらうための職場体験や職場実習を受けてもらえる企業の開拓を行う ・障害者を雇用する時の相談先として昨年度から企業向けに雇用相談会を開催しているので今後も行う。 ・雇用者同士の交流会。
第3回	令和元年 7月18日	<p><雇用後の定着支援について>出席委員6名</p> <p>*雇用側の実態について、障害者の理解、仕事の切出し、フォローや切出しを考える社員などが足りないことが確認された。</p> <p>*雇用される側の実態として、特別支援学校、就労移行支援等の卒業生は、フォロー期間が過ぎて当時の本人を知る人がいないと安心して相談ができない。長く働くからこその悩みに適応できず離職につながることもあるので、そのような時の定着支援が必要だということが確認された。</p> <p>*方策として、雇用者への障害者や制度の理解の説明を行ったり、本人理解の媒体の作成、時系列につまづきやすいポイントや関わる支援機関がわかるようなリーフレット作成などすることで、企業側に対応の見通しを持ってもらうという意見が出された。</p>
第4回	令和元年 8月21日	<p><中間報告に向けて>出席委員5名</p> <p>*これまでの話し合いの経過の確認と答申に向けて目指すことについて討議を行った。</p> <p>*府中市として力を入れていくところはどこか。</p> <p>*目指す姿「府中市の障害者が府中市で働く」</p> <p>*各機関の役割の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国：雇用率の指針、助成制度をつくっている。 ・ハローワーク(国)：制度の説明、求人票、実習面談会、面接会

		<ul style="list-style-type: none"> ・み～な（市）：雇用先の開拓、働きたい人・雇いたい人・事業所へ制度や役割を説明・支援 ・移行・定着支援事業所：障害者を雇用につなげる。 ⇒今後役割があってもできていない部分について、討議をしていくことを確認した。
第5回	令和元年 11月19日	<p><各機関の定着に向けた役割>出席委員6名 障害者雇用の困り事の確認と、府中市として注力していくべき点について話し合いを行った</p> <ul style="list-style-type: none"> *障害者雇用の困りごととして、仕事の切出し、他業種からの就労移行支援への参入による支援機関の障害理解の不足、法定雇用率の上昇、本人、家族、雇用側からの困り事の発信がないため支援機関が介入しにくいなどの意見が出された。 *府中市として注力していくべき点として、本人の「働きたい」と企業の「雇いたい」をつなぐ支援、(特に中小企業で)働き続けるために必要な支援を提供するため、ハローワークや医療も含めた関係機関の支援の輪を構築していく。そのためには各機関の「定着に向けた役割」として「支援者の育成」「質の維持向上」が求められることが確認された。
第6回	令和元年 12月24日	<p><平成31年度中間報告のまとめ>出席委員6名 「支援者の育成」「質の維持向上」にむけた役割について議論を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> *チーム支援：ハローワーク、市、企業、支援機関の連携 *質の向上：障害種別によらない雇用 *チャレンジ雇用：ステップアップのための有期雇用 ⇒支援機関がフォロー *周知：就労事業所にFAXやメール等で募集や制度について知らせる（ハローワーク、み～な） *中小企業へ雇用の支援：現場の声を聞く。 *定着支援：会社・本人の困り事を確認し、解決をしていく（ハローワーク、み～な、特別支援学校、就労定着支援事業所） *情報の蓄積機能の強化：個人情報に配慮に配慮したツールの作成。 <p>⇒現場の声を聞くために府中商工会議所との面談をしていきたいとの意見が出された。</p>